

Care & Communication

ケア&コミュニケーション

C O N T E N T S

<p>P1-2</p>		<p>THE FRONT LINE</p>	<p>スイスをイメージした治療室で最新のインプラント治療を追求 高木歯科医院 院長 高木 幸人 先生</p>
<p>INSIDE REPORT</p>		<p>P3-4</p>	<p>全身の健康も考えながらオーラルケアができる歯科衛生士を養成 福島医療専門学校</p>
<p>P5-6</p>		<p>DOCTOR'S TALK</p>	<p>ISOを使った「標準化」で質の高い予防歯科サービスを提供 つくばヘルスケア歯科クリニック 院長 千ヶ崎 乙文 先生</p>
<p>DENTAL REPORT</p>		<p>P7</p>	<p>デンタル世界紀行 Vol.1 タカハシ・デンタルオフィス 院長 高橋 登 先生</p>

入り口のプレートは木製



家庭的な雰囲気の受付

白と木目が生きる待合室

山形市を一望できるマンションにある

スイスをイメージした診療室で 最新のインプラント治療を追求

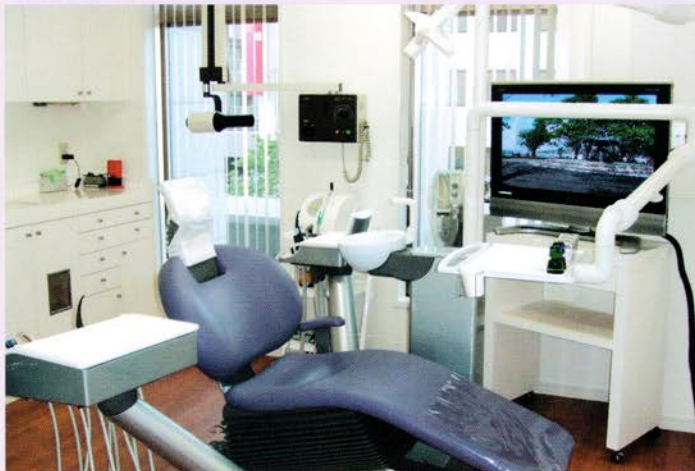
高木歯科医院 院長 高木 幸人 先生

日本でインプラントが珍しかった20年以上前から、専門医として活躍してきた高木幸人院長。今年1月、歯科医院を移転。新たなオフィスでさらなるインプラント技術の研鑽に努めている。



高木 幸人 院長

モニターを備え、広々とした個室



今年、導入のCT



豊富な海外研修経験



Nd:YAGレーザーも活用



すっきりしたオペ室



ユニットは全3台



高木先生とスタッフのみなさん

スイスが新クリニックのデザインコンセプト

インプラント治療専門の高木歯科医院があるのは、山形市で一番の高さを誇る高層マンションの2階。重厚な印象の木製のドアを開けると、一転、白を基調とした温かみのある待合室が目に飛び込んでくる。

この場所に移転したのは、今年1月。20年近く、診療を続けてきたビルの老朽化がきっかけだった。

「イメージしたのは、スイスの診療室。温かみがあり、居心地のいい国です。永世中立国としての芯の強さも持っている。誠実な国民性にも好感を持っていました。それらの特徴が歯科治療にも通じると思い、デザインのコンセプトにしたのです」

高木幸人院長は、日本でインプラントが珍しい時代から、専門医として活躍してきた。学会や研修等を通じて、海外のインプラント事情にも詳しい。そんな長年の経験が生かされているのが、新たなスタートを切ったクリニックなのだ。

海外で学んだ知識を生かし 歯科医院を開院

高木院長がインプラントに興味を持ったのは大学時代のこと。「手足は骨折しても治るのに、歯は一度、ダメージを受けたら、再生しない。なぜなのか。そんな素朴な疑問から、骨に興味を持つようになりました。そして卒院の年、バンクーバーの国際口腔学会に参加したところ、発表テーマのほとんどがインプラント。当時、日本ではインプラントは亜流の治療法でしたから、海外での関心の高さに強いショックを受けたのです」

インプラントの知識と技術を深めたい。そう決意した高木院長は、翌年、インプラント学会で知り合った歯科医師の紹介でロサンゼルスに渡り、ドクター・スマイラーに師事。日本での歯科治療の合間をぬって渡米を繰り返して、技術を磨いた。

そして1989年、身につけた最先端の治療を実践するために、インプラント専門の歯科医院を開院する。

「ところが、インプラントの名称さえ、患者さんに知られていない時代です。初診のインプラントの患者さんが来院したのは、開院から1ヵ月経ってからでした」

と高木院長は笑う。その患者の口腔内は状態が悪く、フルマウスと3本のインプラント治療が必要だった。高額の治療費を患者は承諾してくれるか。高木院長は悩んだ。

「ごく普通の家庭の主婦の方でしたし、金額を伝えるときは、チェアから転げ落ちそうなほど、驚かれました。断られると覚悟していたのですが、翌日、「お任せします」というお返事をいただいたのです。「絶対に裏切れない」と、私を信頼してくれた患者さんの決意に感激しました。1年がかりで力の限り、丁寧に仕事をさせていただきましたが、患者さんは20年ほど経った今も遠くから定期健診のために通院してくださっています。どういふふうに接すれば、患者さんに信頼してもらえるのか。治療費以上のことを教えていただきました」

インプラント治療の本質は昔も今も変わらない

いまや全国の数多くの歯科医院がインプラントを手がける時代になった。その状況を高木院長はどう見ているのだろうか。

「20年前に比べ、インプラント治療が安全になったイメージがありますが、そんなことはありません。危険が伴う治療法であることは変わらない。ただ、以前に比べ、CTスキャンを導入するな

ど、術前の診断技術が向上したことは確かでしょう」

高木歯科医院では、今回の移転に合わせ、山形県で初めて歯科用CTスキャンを導入した。高木院長は、CTスキャンが使えるようになったことで、これまで真っ暗闇の中を歩いていた状態が懐中電灯を持って歩けるくらいにまで進歩した、と語る。

高木院長は、インプラント治療の重要なポイントとして、第一に正しいインプラントシステムを導入することを挙げる。自分が納得し、なおかつ使いやすいシステムを導入することが成否の鍵を握るという。第二は適応症を選ぶことだ。本当にインプラントが必要なのか。症状だけでなく、患者の経済的・心理的な負担も含めて、慎重に検討するべきと話す。

「インプラントを受ければ、すべてがバラ色になっていると思っている患者さんがいますが、症例によっては、そうではないケースもある。インプラントは手順を学べば、誰でもできます。しかし、正しく診断し、患者さんのQOLを上げる的確な治療を行うことは難しい。その違いを私たち歯科医師は肝に銘じなければなりません。日々、スキルアップの努力が欠かせないのです」

時間と空間、精神的な余裕が 質のよい治療を生む

高木院長が海外の歯科医師との交流を通じて感じるの、日本の歯科医師の忙しさだ。時間だけでなく、診療室の空間や精神的に余裕がないのが気になるという。

「日本と海外では診療事情が違いますから、経営者として、ついがむしゃらに働いてしまう気持ちは分からなくもありません。しかし、その忙しさは本当に必要なことなのでしょう。患者さんをベルトコンベアーに乗せて治療する状況になっていないか、たまには振り返ってみてもいいのではないのでしょうか」

歯科医師がリラックスした状態でポジティブに治療していれば、患者にも気持ちが伝わり、治療に対する意識が前向きになる。また、スタッフの意欲も変わってくる。

そのために、たとえば、思い切って診療を1週間休み、海外の研修で見聞を広めてみる。休診日に家族とゆっくり過ごしたり、趣味を楽しむことで、診療日とメリハリのある生活を送る。ユニット周りに極力、ものを置かず、すっきりとさせることで空間的余裕を生み出す。そんなふう、歯科医師が自分をいたわり、働きやすい環境を作ることが、質のよい治療につながり、患者のためにもなるのではないかと、高木院長は提案する。

「大学時代や歯科医師になったばかりの頃は、知ることが楽しくて仕方がなかったはず。知ること、好奇心を持つことは、仕事にも人生にも張り合いをもたらします。せつかく歯科医師という素晴らしい職業についたのですから、限りある人生を楽しく、実りあるものにして欲しい。とくに若い歯科医師には、それをぜひ伝えたいですね」

Profile

高木 幸人 先生 ●1980年 東北歯科大学卒業 ●1986年 東北大学大学院歯学研究科博士課程修了(口腔外科学専攻) ●1987年 米国DR.Dennis G. Smilerに師事し、インプラント臨床を学ぶ。 ●1989年 高木歯科医院開院 ●2007年 現在地に移転 ●東北大学大学院歯学研究科非常勤講師 ●日本顎咬合学会認定指導医 ●国際インプラント学会(ICOI) Fellow, Diplomate (認定医、専門医) ●インプラントチームジャパン(スマイル倶楽部) ●著書「スーパーデンティストを探せ!」(現代書林)など

高木歯科医院

住所:山形県山形市十日町1-2-30-202

TEL:023-625-5825 HP: <http://takagidental.com/>

全身の健康も考えながら オーラルケアができる歯科衛生士を養成

福島医療専門学校

予防歯科が重視されるにつれて、歯科衛生士に対する期待も高まっている。そのようなニーズに応え、歯科衛生士科を新設したのが、福島医療専門学校だ。全国でも珍しい夜間部も併設した同校をさっそくたずねてみた。

社会人にも歯科衛生に関する 勉強のチャンスを与えたい

郡山市にある福島医療専門学校は、もともと柔道整復師や鍼灸師を養成する専門学校。2006年に歯科衛生士科を新設。その際、校名も現在の名称に変更することになった。

歯科衛生士科を新設したのは、歯科衛生士が全国的に不足し、予防が重要視される今後の歯科医療において、歯科衛生士の果たす役割が高まるとの認識が発端だった。「医療の専門学校として、ニーズに応えなければという使命感を感じました。夜間部を設けたのも、すでに助手などで働いている人たちにも勉強するチャンスを与え、通いやすい環境を整えようと考えたからです」（八木康一校長）

10年間活躍できる知識を 身につけてもらうのが目標

現在、1年生の昼間部は22名、夜間部は6名、2年生は昼間部が10名、夜間部が3名だ。昼間部の教師が夜間部も教

え、カリキュラムも昼夜での区別はない。

「まずは、10年間活躍できる知識を身につけてもらうことを目標にしています。それも口腔内だけでなく、全身を見られる歯科衛生士になって欲しい。顔色や歩き方の違いまで見分けられないと、本物の口腔ケアはできないと考えているからです」

（濱津慶子 歯科衛生士科学科長・歯科医師）

歯科衛生士の教育が3年制になったことで、教えられるカリキュラムの幅が広がった。同校では、高齢者・障害者歯科学や西洋医学とは異なる視点から口腔内の病気を学習する歯科東洋医学、PMTCを含む審美歯科学を選択必修科目に取り入れている。

「私たちの学校の強みは、全身を診る柔整科や鍼灸科も併設していることです。他の科との交流を通じて、口腔や歯が全身とつながっていることを強く意識するようになります。単に主訴を解決するだけでなく、患者さんのQOLの向上についても考えられる歯科衛生士に育てて欲しいと思っています」

（武本泰 教務副部長・歯学博士）



本部・柔整科校舎

歯科衛生士科校舎

鍼灸科校舎



岸野雅方 理事長



八木康一 校長



武本泰 教務副部長



濱津慶子
歯科衛生士科学科長



広々とした実験室。PCルームや図書館もある



実践さながらの実習が行われる

一人の社会人としてのマナーと教養も重視

知識の習得とともに同校が重視しているのは、人間教育。「挨拶がきちんとできる」「適切な言葉づかいでコミュニケーションができる」人間になるための教育にも力を注いでいる。「いろいろな患者さんと接する歯科衛生士は、大人としての

マナーが身につけていることも重要です。それには、髪をたばねたり、爪を切るといった身だしなみも含まれます。非常に基礎的なことですが、学生時代から習慣にしていなければ、実践の場で行動することはできません。ですから、私たちは、常日頃学生たちに実習室は臨床の現場であり、緊張感を持つように指導しているのです」(八木校長)

Student Interview

介護施設で活躍できる 歯科衛生士を目指しています

夜間部1年生 栗城いづみさん(33歳)



引込み思案で人と接するのが苦手だった私が、歯科衛生士を目指すようになったのは、今、務めている職場がきっかけでした。内科・歯科併設の個人病院に事務として就職したのですが、人手不足から施設内の歯科の助手として働くことになったのです。

働き始めてからは、すでに15年経ちますが、基礎的な知識がないため、どうしても仕事に自信が持てない部分があるんですね。そのため、きちんと基礎から勉強してみたいという気持ちがつねにありました。

でも、学校に通うとなると、費用も時間もかかります。働きながらの通学は職場の理解も必要です。その上、これまでは入学に年齢制限のある学校もあったため、私の年齢ではなかなか受け入れてもらえないということもありました。

そんなとき、福島医療専門学校に夜間部もある歯科衛生士科ができると聞いたのです。

「ここなら、働きながら、勉強ができる」

と思った私は、すぐに入学を決意。職場の院長先生に相談したところ、将来、施設のためにもなることだから、と通学を許してくださいました。

実際の通学は想像以上に大変でした。午後6時から午後9時10分まで、1時限1時間半の授業を2コマ受けるのですが、内容が専門的なことと、昼の疲れもあって、集中力を保つのが大変です。また、職場と学校が車で1時間半ほど離れているので、時間的なやりくりにも苦労しています。

でも、その苦労を上回るくらい、通ってよかったと思っています。授業を受けてみると、今まで漫然とこなしていた仕事の意味がはっきりと分かるんですね。私はまだ1年生ですが、今まで教えていただいたことが、すでに職場では役に立っています。これからも、なんとしてでも勉強を続けたいと思っています。

歯科の仕事の幅を広げたい 一心で入学しました

夜間部2年生 高瀬奈穂子さん(28歳)



8年目の歯科助手として、歯科医院で働きながら、通学しています。じつは、歯科衛生士という職業があることは、働き始めてから知りました。一緒に働いている歯科衛生士さんが4人いるのですが、彼女たちと日常的に接していると、私とは基礎知識が違うため、「もっと勉強して、より幅広い口腔ケアを実践したい」という気持ちが強くなっていくんですね。

ただ、これまでは、働きながら通える学校が近隣になかったことと、仕事をやめてまで通うのも難しかったので、歯科衛生士になる夢は諦めていました。そのような時、勤務先の院長先生から、福島医療専門学校に歯科衛生士科が新設されることを教えていただいたのです。私の自宅と勤務先から学校までは、新幹線で一駅の距離。通学に1時間半かかりますが、院長先生が「歯科助手として働きながら、志高く通学するのは、素晴らしいこと。自分のためにも、患者さんのためにも、より貢献できる歯科衛生士になって欲しい。微力ながら、夢を応援するよ」と励ましてくださったこともあり、すぐに通うことを決意しました。

学校に通うには、午後4時には仕事を切り上げなければなりません。歯科医院が一番忙しい夕方に帰るのは心苦しいのですが、慢性的に不足している歯科衛生士の資格を私がとることが、院長先生や同僚への恩返しと勉強の励みにしています。

1年生の頃は基礎医学的な科目が多かったのですが、2年生になり、専門的な科目が増えてきて、より仕事に役立つことも増えてきています。先生方が熱心に教えてくださることもあって、今は学校が楽しくてしかたがありません。

将来は、予防歯科を専門に勉強しようかと考えています。また、歯科衛生士は、女性にやりがいをもたらしてくれる仕事です。まだまだこれからの私ですが、将来は歯科衛生士の魅力を伝え、同じ志を持つ仲間を増やしていきたいですね。

Profile

福島医療専門学校

住所：福島県郡山市並木三丁目2番地23 TEL:024-933-0808 HP: <http://www.f-iryo.ac.jp/>

北海道・東北初の昼間部・夜間部の歯科衛生士科2部制を導入する医療専門学校。歯科衛生士科は2006年に新設。同校には他に柔整科、鍼灸科を持つ。



受付の左右のドアから診察室に入る



つくば駅から車で10分ほどの距離にある



待合室にはオリジナルの情報シートが数多く貼られている



広々とした受付まわり

ISOを使った「標準化」で 質の高い予防歯科サービスを提供

つくばヘルスケア歯科クリニック 院長 千ヶ崎 乙文 先生



千ヶ崎 乙文 先生

予防歯科を診療の中心にするためには、患者の意識を変えとともに、スタッフのマンパワーを生かすシステムの構築が欠かせない。ISOを導入し、「標準化」による質の向上を目指す「つくばヘルスケア歯科クリニック」を訪問してみた。

予防管理型の歯科医院で 患者のQOLを高めたい

茨城県の北浦町で開業していた千ヶ崎乙文院長が、つくば市に新たな歯科医院の建設を決意したのは、予防歯科を治療の中心にしたいという思いからだった。

「従来の歯科治療は、虫歯になってから修復する敗戦処理のような主訴対応型。治療の照準を患者さんのQOLに合わせて、健康な歯をどれくらい残せるかに歯科医院の目標を設定する必要があります。そのためには、地域に密着した予防管理型の歯科医院が必要と考えたのです」

だが、経営面を考えると、予防歯科を中心にするには、ある程度の数の患者を確保する必要がある。また、これまで主訴対応型だった歯科医院を予防管理型に変えるという手法は、患者やスタッフの抵抗感が大きい。そこで、規模が北浦町より大きいつくば市に新しく歯科医院を構えることにしたのだ。

わかりやすく、粘り強く 予防歯科の必要性を説得

つくばヘルスケア歯科クリニックの患者の中心は30~40代

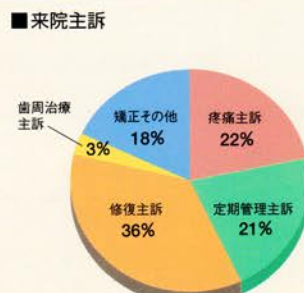
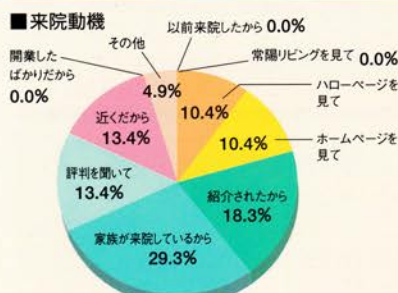
の女性。彼女たちの勧めをきっかけに、家族や知人が来院するパターンが多い。ヘルスケアへの関心が高く、予防歯科にもスムーズに誘導できる層なのではないか、と思われるが、実際には、開院当初からしばらくは、予防歯科の必要性を理解してもらうのに苦労したという。

「虫歯の痛みや補綴物の修復で来院する患者さんが圧倒的に多く、予防歯科の存在さえ知らない人もいました。その意識をどう変えるかが、第一の課題でした」

千ヶ崎院長は、粘り強く説明を続けた。たとえば、虫歯の患者に「なぜ穴が空いたと思いますか？」とたずねる。患者が「磨き方が悪かったんですかね」と答えると、「歯ブラシだけで防げるとは思いますか？」というように、話しかけるきっかけを見つけるたびに、やさしく、ていねいに質問を続けたのだ。

「患者さんのなかには、歯科医院が利益のために勧めているのではないかと誤解される方も少なくありません。歯科予防が患者さんの利益になることを、十分に理解してもらうことがとても大切です。誤解はお互いを不幸にします」

千ヶ崎院長の地道な努力が実を結び、徐々に予防歯科の重要性は浸透。現在ではメンテナンスのために通う患者も増え、4人に1人は定期管理を求めての来院だという。



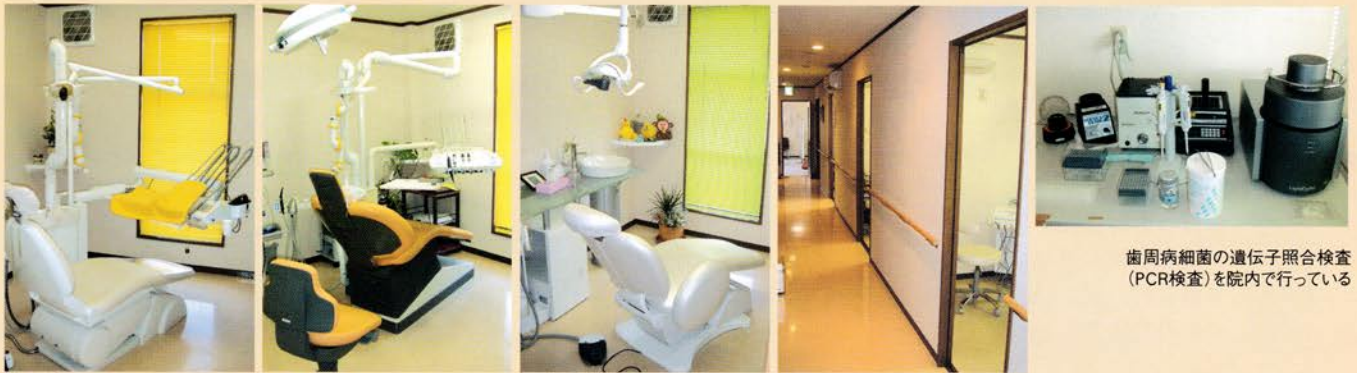
来院動機や来院主訴も開院時から綿密にデータを収集している(初診からの累積)



オリジナルバイダー。持ち運びしやすいA6サイズ



バイダー資料をすぐに出力できるように各診療室にプリンターを備えてある



●一般歯科診療室
明るくゆったりとしたなかで
診療が受けられる

●特殊歯科診療室
オペなどを行う特殊歯科
診療室は、温かみのある
色のチェアが印象的

●予防歯科診療室
清潔感のある白いチェアを
使用した予防歯科診療室

中央に準備・技工室やレントゲン
室、特殊歯科診療室を、その右の
廊下側に一般歯科診療室、左側
に予防歯科診療室を配置

歯周病細菌の遺伝子照合検査
(PCR検査)を院内で行っている

スタッフレベルの標準化を目指し、ISOを導入

同歯科医院では、初診の段階から、予防歯科の大切さを伝える患者への働きかけが始まる。説明だけでなく、4枚法や13枚法などによる写真撮影やレントゲン撮影、唾液検査など、口腔内の検査も初診で行うことが多い。そのため、初診の予約時間が1時間から1時間半かかることもある。

その後は、主訴の治療経過を見ながら、PMTCなどを行い、主訴の治療が終わったあとは、定期的なメンテナンスに入る。「予防歯科に誘導するためには、きめこまかなコミュニケーションと一定のレベルの技術力が必要です。しかし、院長が対応できる患者数には限りがある。多くの患者さんに対応するには、スタッフの力が不可欠です。スタッフが僕と同じくらいのレベルで患者さんに対応することで、予防管理型の歯科医院は成り立つと言っても過言ではありません。そこで、スタッフの技術やコミュニケーション能力を標準化するために、開院から2年後にISO9001:2000を取得しました」

歯科におけるISOは、医療の質をコントロールすることが重要になる。同医院でもセクションごとに委員会を作り、組織図を構築。責任と分担を明確にした。

ただし、歯科医院は一般企業とは異なり、報告書の作成に時間を取られすぎるとは本末転倒になってしまう。千ヶ崎院長が着目したのは、管理業務をスムーズに進めるための管理マネジメントサイクル「PDCA」だった。①PLAN(計画)、②DO(実行)、③CHECK(点検・評価)、④ACTION(処置・改善)のサイクルに沿って業務を行い、最後のACTを次にPDCAにつなげ、螺旋を描くように業務を一段ずつ向上させていく手法である。単に業務を正確にこなすだけでなく、点検と改善まで盛り込むことで、業務のレベルアップが図れる。

システム自体の導入はそう難しいものではなかったが、千ヶ崎院長が苦労したのは、スタッフに必要性を納得させることだった。「それまでのスタッフの意識は、患者さんを怒らせなければいいというもの。ISOの導入によって、クレームの原因を追究したり、日常点検を続けることは、スタッフにとっては、仕事が増えることでしかありませんでした。しかし、PDCAサイクルを活用することで、歯科医院独自のマニュアルが作成できること、マニュアル化することで効率がよくなること、能力の向上が患者さんと歯科医院の利益につながれば、給与という形で反映されることなどが浸透するにつれて、スタッフの意識も変わっていったのです」

オリジナルの治療ファイルを配布し、患者の意識を高める

患者の予防への意識を高めるために、同歯科医院では、患者全員に無料でA6サイズの治療ファイルを渡している。中身は初診や治療の節目に撮影した口腔内の写真、歯周病などの検査結果、治療法の説明書、メンテナンスのポイントなど。治療法やメンテナンスの解説書はオリジナルで、千ヶ崎院長が患者向けのセミナー用に作成した資料を活用している。

「チェアサイドで一生懸命、説明しても、自宅に帰れば、8割の情報は忘れられています。しかし、復習できるツールがあれば、思い出すきっかけになる。また、宣伝ツールとしての役割も果たしてくれます」

チェアサイドでプリントアウトし、ファイルに綴じられるシステムなので、手順を覚えればすぐに出力はできるが、どのような資料を患者に渡すのが適切なかを判断するため、スタッフは歯科全般に対する深い知識が必要になる。またファイルの配布はコストがかかる。

「ファイルを配布するだけなら簡単なのです。中身と活用の仕方が大事。続けていく意欲も必要でしょう」

そしてさらに、千ヶ崎院長は、こんな苦言も呈する。「予防歯科で重要なのはドクターに主訴解決能力が備わっていること。長期的に経過を見守るだけに、自分がかぶせたクラウンが壊れることになったら、申し開きができない。主訴を治すという従来型の歯科治療の基礎があってこそ、スタッフと力をあわせて取り組む予防歯科が生きてくるのです」

Profile

千ヶ崎 乙文 先生

●1979年 東京大学理学部物理学学科卒業 ●1979～1983年 東京大学理学系大学院物理学専門課程 ●1989年 東京医科歯科大学歯学部卒業 ●1990年 千ヶ崎歯科医院(北浦町)開設 ●2003年 つくばヘルスケア歯科クリニック開設 ●藤本補綴臨床研修会サポータースタッフ ●日本ヘルスケア歯科研究会 ●東京医科歯科大学歯学部非常勤講師 ●AQBインプラント指導医 ●日本歯周病学会会員 ●日本臨床歯周病学会会員 ●日本臨床補綴学会会員 ●日本Nd-YAGレーザー学会会員 ●日本インプラント学会会員

つくばヘルスケア歯科クリニック

住所:茨城県つくば市手代木1925-4

TEL:029-860-8100 HP:<http://www.caredental.org/>

デンタル世界紀行

Vol.1

タカハシ・デンタルオフィス 院長 高橋 登 先生



高橋 登 先生



Rudolf Stingel Untitled 2007. Museum of Contemporary Art Chicago ニューヨークを中心に国際的に活躍しているモダンアーティストのアルミ箔とウレタンによる巨大な作品。期間限定で観覧者が自由に手を加えられる

世界の歯科医療は今、どのようなトレンドなのか。
『C&C』5号に登場していただき、欧米の学会等に参加経験が豊富なタカハシ・デンタルオフィス院長の高橋登先生に、最新の欧米事情をレポートしていただきました。

いまや歯科界もグローバル化が進み、日本の現状を評価するにも、世界の情勢を理解することは避けて通れなくなってきました。そこで、審美歯科をテーマとして、国際的に情報交換が行われている様子を国際学会を中心にご紹介していこうと思います。

まず、最もパワフルで注目すべき審美歯科学会であるAACD (American Academy of Cosmetic Dentistry) を取り上げましょう。

今年のAnnual Meetingは、5月15日～19日の5日間、ジョージア州アトランタにて開催されました。

AACDの設立は1984年。20年に渡って拡大を続け、現在では世界最大の審美歯科学会として、60カ国以上7600人という会員数を誇っています。毎年、春に開かれる学術大会では、あまりに多い参加者のため、ホテルの予約や講演の受講が非常に困難になるほどです。私も昨年のサンディエゴ大会の際はモーターしか予約できず、不便を余儀なくされました。

これほどまでに歯科医療関係者(特に米国)の人気を集める理由は、従来の枠にとらわれない学会活動にあります。質の高い教育活動はもちろんですが、チャリティー活動(ドメスティックバイオレンスの被害者救済活動、実績3億6000万円)やテレビ番組のスポンサー(番組内で認定医の医院を紹介)など、社会に対し、積極的なマーケティング戦略をとっており、会員が学会内で実績を積むことで、その先生の医院がテレビやウェブサイトで宣伝され、患者獲得につながるようなシステムができあがっています。

資本主義国家の典型である米国らしく、シンプルな経営的要素が開業歯科医を学会を駆り立てるドライビングフォースとなっており、学会と会員、双方の繁栄を築く手助けとなっています。日本にも、そんな学会があると面白いですね。

来年はニュージャージーでの開催なので、ちょっと遠いのですが、2009年は第25回記念大会がハワイのホノルルで4月28日～5月4日の日程で開催されます。ご興味のある方は参加されてみてはいかがでしょうか。



本年、AACDミーティングが開催されたのは、CNNの本拠地、アトランタです。私もアトランタ初上陸でした



AACD 2006-2007 President Dr. Marty Zase 「AACDのミーティングではさまざまな教育活動を行っています。2009年の開催地はホノルルなので、日本の先生方もぜひいらしてください」とのお言葉をいただきました



カラーゲンを注入してフェイスリフトを行う手法が紹介されていました。米国の南部では、顔面美容整形は形成外科より口腔外科医の領域との認識が定着しているのですが、米国以外の先生方はとても驚いていました



学会ではダイレクト・ボンディング・ハンスオンコース・インストラクターを務めました。米国でもコンボジットのコースは人気があります



■ AACDオープニングイベント 毎朝、講演やコースが始まる前に著名人のトークショーやさまざまなイベントが行われるため、先生方は朝からメインホールに詰めかけます

SASAKI

お問い合わせ・ご意見:『C&C』事務局 細谷俊寛

FAX 0120-566-052 <http://www.sasaki-kk.co.jp>

S Vol.13 September 2007 発行:ササキ株式会社 東京都文京区本郷3-26-4 ササキビル4F

●本誌に記載された個人の氏名・住所・電話番号等の個人情報の悪用を禁じます。●本誌の記事・写真・図版等を無断で転載・複製することを禁じます。